

第4回カーボンリサイクル技術ロードマップ検討会 議事要旨

日時：令和3年6月24日（木）16：00～16：55

場所：オンライン開催（Teams）

出席者：別紙参照

議題：「カーボンリサイクル技術ロードマップ」の改訂について

議事概要：事務局より、資料に基づき説明が行われた。委員等からの主な意見は以下のとおり。

- 回収したCO₂が大量な場合など、CO₂すべてをカーボンリサイクルで利用するのが難しい場合にはCCSの併用も有意ではないか。
- カーボンリサイクルの取組に進展があり、本ロードマップの改訂内容に賛成。今のフェーズはイノベーションを加速する段階だが、将来的にはCO₂利用量の目標が示せるようになることを期待。
- 水素の価格が、カーボンリサイクル技術の社会実装における重要なポイントになる。したがって、水素の開発・導入状況も見据えながら取組を進めていくことが重要。
- カーボンリサイクルの技術基盤として、C1化学分野が重要。同分野を基盤に磨いていくことで全体の底上げが可能。
- 導入・社会実装に向けて重要なのがLCAと標準化。本ロードマップでも課題として認識されているとおり、しっかり取り組んで行く必要。
- 技術開発の進捗が著しいDAC(Direct Air Capture)やSAF(Sustainable Aviation Fuel)が明確に位置づけられたことを評価したい。
- カーボンリサイクルが本格的に普及していく過程において、炭素を含んだ廃プラスチック等のリサイクルや、CO₂を直接利用するEOR・CCSもカーボンリサイクル関連技術として位置づけておくことが重要。

本日の議論を踏まえ、カーボンリサイクル技術ロードマップ改訂案については座長一任となった。

以上

第4回カーボンリサイクル技術ロードマップ検討会 出席者

(座長)

南 亮 経済産業省 資源エネルギー庁長官官房 カーボンリサイクル室 室長
(資源・燃料部長)

(委員 50音順)

川尻 喜章	名古屋大学大学院 工学研究科物質プロセス工学専攻 教授
齋藤 公児	日鉄総研株式会社 シニアフェロー
坂西 欣也	産業技術総合研究所 エネルギー・環境領域長補佐 ゼロエミッション研究戦略部担当
杉村 英市	電気事業連合会 技術開発部長
竹田 剛	一般社団法人日本ガス協会 普及部 技術開発担当部長
土肥 英幸	新エネルギー・産業技術総合開発機構 技術戦略研究センター 環境・化学ユニット長
中垣 隆雄	早稲田大学理學部 創造理工学部総合機械工学科 教授
槇 啓	出光興産株式会社 経営企画部 次長
水口 浩司	株式会社東芝 研究開発センター トランステューサ技術ラボラトリ室長
山中 一郎	東京工業大学 物質理工学院 応用化学系 教授 <欠席>

(関係府省・オブザーバー)

高澤 哲也	内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局参事官
土居下 充洋	文部科学省 研究開発局 環境エネルギー課 課長
加藤 聖	環境省 地球環境局地球温暖化対策課 地球温暖化対策事業室長

(事務局)

土屋 博史	経済産業省 資源エネルギー庁長官官房 カーボンリサイクル室 室長代理 (資源・燃料部 石炭課 課長)
梅原 徹也	経済産業省 資源エネルギー庁長官官房 カーボンリサイクル室 室長代理 (産業技術環境局 エネルギー・環境イノベーション戦略室 室長)
富永 和也	経済産業省 資源エネルギー庁長官官房 カーボンリサイクル室 (資源・燃料部 石炭課 課長補佐)
中野 辰実	経済産業省 製造産業局 素材産業課 課長補佐
鶴見 裕史	経済産業省 製造産業局 素材産業課 専門職
佐々木 文人	経済産業省 資源エネルギー庁資源・燃料部 石油精製備蓄課 課長補佐